

# 文科省大学間連携共同教育事業

## 第 6 回到達度評価委員会議事録

【日 時】平成 27 年 5 月 8 日（金）11 時 00 分～12 時 10 分

【場 所】以下の 3 拠点によるスカイプ会議

昭和大学旗の台校舎 1 号館 502 号室、岩手医科大学、北海道医療大学 越野教授室

【出席者】岩手医科大学：木村重信 教授、近藤敬 課長

北海道医療大学：坂倉康則 教授、越野 寿 教授、西村丈裕 様

昭和大学：佐藤裕二 先生、片岡竜太 先生、須郷広子 様、乾さやか 事務員

東京大学：大西弘高 先生、東京医科大学：R. ブルーヘルマンズ 先生

### 議 事 内 容 ( 案 )

#### I. 到達度評価について

- 1) 第 5 回到達度評価委員会（平成 26 年 10 月 15 日(水)）議事録（承認）〈資料 1〉  
連携授業の教育効果に対する評価・検証については到達度評価委員会主導で行い、国内外の先行事例を調査して、様々な角度から評価して数値化することが良いのではないかという意見があった。
- 2) 第 1 回外部評価委員会議事録（承認） 〈資料 2, 別添資料 文科ヒアリング用資料〉
  - (1) 教員側の意見を吸い上げるため今年度よりアンケートを実施する。
  - (2) 次回 WS で地域医療実習の改善について歯科医師会主導で検討する。
  - (3) 技能・態度の評価について電子ポートフォリオの活用を検討する。
  - (4) VP の教育効果について臨床推論能力の評価に加え、収集した情報をどのように治療計画に利用したか評価方法を検討する。
  - (5) 学生インタビューを行う。
  - (6) 到達目標に対する ICT のメリットを明確にする。ポートフォリオを学生の記録だけでなく、学生間の情報共有、ショーケースとして利用するなど 3 連携大学の学生がお互い学べるような仕掛けを検討する。
- 3) 第 6 回 IT を活用した教育センターWS までの到達度評価について
- 4) 本取組の到達目標について次回 WS で再検討する。 〈資料 3〉

#### II. 今後の取組みについて

- 1) 各到達目標に対する 3 連携大学共通試験の実施について  
今年度 5 年生の終わりに三大学でトライアル実施を検討している。  
評価者が到達目標の設定とプログラムを作成し、授業担当者に試験を依頼する。  
試験問題原案を各 WG で作成し、到達度評価委員にブラッシュアップを依頼する。
- 2) 3 大学の学生間の交流をいかに図るか？

授業内容と教材に対して3 大学学生が自由に書き込める場所を作成する。

モデレータとして定期的な教員の介入が必要。

試験に関する情報の共有について注意が必要である。

3) その他

教務としての IT の管理等関わりについて検討する。

次回開催日・・・第7回 I Tを活用した教育センターワークショップ（6/4（木））終了後に日程調整予定

以上

## 口腔医学とチーム医療

### ■一般目標 [G I O]

国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔科医）になるために、医療の仕組みを理解し、多職種連携のチーム医療に参加し、特に高齢者にみられることが多い口腔症状と各種全身疾患との関連を理解した上で、口腔のケアプランを立案する能力を獲得する。

### Step1

#### ■行動目標 [S B O s]

1. 日本の将来人口推計等から今後の日本の医療・歯科医療体系を考える。
2. 高齢者に多く見られる基礎疾患について概説できる。
3. 脳卒中の症状と全身および口腔の機能に対する影響を説明できる。
4. 脳卒中後の患者の歯科診療における注意点を概説できる。
5. 脳卒中発症から症状の回復までの一連の医療体制を概説できる。
6. 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療の基本を説明できる。
7. 唾液の分泌に影響を与える因子について説明できる。
8. 口腔乾燥症の口腔内所見について説明できる。
9. 口腔乾燥を認める患者に対する口腔ケアについて説明できる。
10. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施し、その結果を評価できる。

### Step2

#### ■行動目標 [S B O s]

1. 高齢者に多く見られる基礎疾患について説明できる。
2. 基礎疾患を有する患者の歯科診療における注意点を説明できる。
3. 口腔乾燥を訴える患者の鑑別診断を説明できる。
4. 口腔乾燥を訴える患者に対して医療面接で聞く内容を説明できる。
5. 口腔乾燥症の症状と治療法を説明できる。
6. 脳卒中の症状と全身および口腔の機能に対する影響を説明できる。
7. 急性期と回復期のチーム医療体制を説明できる。
8. 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療を説明できる。
9. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施し、診断につなげることができる。

10. 全身疾患を有する患者に対する口腔のケアの実施について説明できる。

### Step 3

#### ■行動目標 [SBOs]

1. 病診連携、病病連携を体験し、理解する。
2. 多職種連携（医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）のチーム医療を理解し、体験する。
3. 地域医療の体験を通じて、保健・医療・福祉・介護の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。
4. 在宅（訪問）歯科診療に関する基本的知識・技術を有する。
5. 基礎疾患を有する患者に対して口腔ケア計画を立案できる。
6. 患者の全身状態を的確に把握し、必要に応じて医師と相談できる。
7. 口腔乾燥を訴える患者の診断および治療計画を立案できる。

### <参考資料>

#### <これからの歯科医師に求められる基本的な資質・能力>

1. 高齢者・障がい者の心身的特性、あるいは循環器疾患、呼吸器疾患、脳血管障害、糖尿病などの全身疾患に関する基本的な知識を有し、これらの疾患を有する患者の状態を的確に把握した上で、医科との連携の下で適正な対応ができること
2. 在宅（訪問）歯科診療に関する基本的知識・技術を有するとともに、医師、看護師をはじめとした保健・医療・福祉・介護専門職と協働した地域包括ケアの一員として歯科保健医療を実践できること

#### 【口腔乾燥症関連】

1. 唾液の分泌に影響を与える因子について説明できる。
2. 口腔乾燥症の口腔内所見について説明できる。
3. 口腔乾燥を認める患者に対する口腔ケアについて説明できる。
4. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施し、その結果を評価できる。
5. 口腔乾燥を訴える患者の鑑別診断を説明できる。
6. 口腔乾燥を訴える患者に対して医療面接で聞く内容を説明できる。
7. 口腔乾燥症の症状と治療法を説明できる。
8. 口腔乾燥を訴える患者の診断および治療計画を立案できる。

**【全身状態を考慮した歯科診療】**

1. 高齢者に多く見られる基礎疾患について概説できる。
2. 脳卒中の症状と全身および口腔の機能に対する影響を説明できる。
3. 脳卒中後の患者の歯科診療における注意点を概説できる。
4. 高齢者に多く見られる基礎疾患について説明できる。
5. 基礎疾患を有する患者の歯科診療における注意点を説明できる。
6. 脳卒中の症状と全身および口腔の機能に対する影響を説明できる。
7. 患者の全身状態を的確に把握し、必要に応じて医師と相談できる。

**【地域医療・チーム医療関連】**

1. 日本の将来人口推計等から今後の日本の医療・歯科医療体系を考える。
2. 脳卒中発症から症状の回復までの一連の医療体制を概説できる。
3. 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療の基本を説明できる。
4. 急性期と回復期のチーム医療体制を説明できる。
5. 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療を説明できる。
6. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施し、診断につなげることができる。
7. 全身疾患を有する患者に対する口腔のケアの実施について説明できる。
8. 病診連携、病病連携を体験し、理解する。
9. 多職種連携（医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）のチーム医療を理解し、体験する。
10. 地域医療の体験を通じて、保健・医療・福祉・介護の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。
11. 在宅（訪問）歯科診療に関する基本的知識・技術を有する。
12. 基礎疾患を有する患者に対して口腔ケア計画を立案できる。

## ＜モデルコアカリキュラム・国家試験出題基準＞

### 【地域医療・チーム医療関連】

#### モデルコアカリキュラム

##### 1. 地域医療

- 1) 病診連携、病病連携を体験し、理解する。
- 2) 多職種連携（医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）のチーム医療を理解し、体験する。
- 3) 地域医療を体験する。

##### 2. チーム医療

- 1) 患者中心のチーム医療の意義を説明できる。
- 2) 医療チームや各構成員（歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。
- 3) 保健・医療・福祉・介護の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。

#### 国家試験出題基準

##### 1. 社会と歯科医療 | 約 2%

- 1) 保健・医療・福祉・介護の制度
  - ① 歯科医師法
  - ② 歯科衛生士法
  - ③ 歯科技工士法
  - ④ 薬事法
  - ⑤ 医療法
  - ⑥ 保健・医療・福祉・介護の各制度と職種
  - ⑦ 地域歯科保健活動での各職種の連携に関する制度

##### 2. チーム歯科医療 約 2%

- 1) 医療機関でのチームワーク
  - ① 歯科医師・医師間
  - ② 歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士間
  - ③ 多職種連携
- 2) 地域医療でのチームワーク
  - ① 病診連携

- ② 診診連携
- ③ 保健・医療・福祉・介護・教育の連携
- ④ 家族との連携
- ⑤ 地域連携クリニカルパス
- 3) チームワーク形成
  - ① リーダーシップ
  - ② チームの調整技能
- 4) コンサルテーション
  - ① 自己責任と自分の限界
- 5) 社会生活
  - ① 社会復帰
  - ② 社会保障制度（所得、介護、障害）
  - ③ 人的支援
  - ④ 物的支援（福祉用具）
  - ⑤ 社会的支援
  - ⑥ 自立

### 3. 総論保健医療論 [約 12%]

- 1) 保健・医療・福祉・介護の仕組みと資源
  - ① 衛生行政の組織
  - ② 医療機関
  - ③ 福祉施設
  - ④ 介護施設
  - ⑤ 医療関係職種
  - ⑥ 福祉・介護の制度と職種
  - ⑦ 医療連携、チーム医療
  - ⑧ 保健・医療・福祉・介護の制度と連携
- 2) 地域保健、地域医療
  - ① 公衆衛生活動，地域保健活動医療政策を含む
  - ② 医療計画、健康増進計画
  - ③ ヘルスプロモーション
  - ④ 地域保健活動の進め方
  - ⑤ 都道府県、市町村、保健所の歯科保健業務
  - ⑥ プライマリケア
  - ⑦ かかりつけ歯科医機能
  - ⑧ 救急・災害時等の歯科保健医療対大規模災害を含む対策

- ⑨ へき地医療
  - ⑩ 在宅医療、在宅歯科医療
- 3) 社会保障と医療経済
- ① 社会保障制度
  - ② 医療保険、介護保険
  - ③ 医療経済と国民医療費

## モデルコアカリキュラム

### 1. 高齢者の歯科診療

- 1) 老化の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
- 2) 老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。
- 3) 高齢者に多くみられる疾患を説明できる。
- 4) 高齢者における口腔ケア処置について説明できる。
- 5) 口腔機能向上による介護予防について説明できる。
- 6) 高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。
- 7) 高齢者に対して基本的な歯科治療の介助ができる。
- 8) 要介護高齢者(在宅要介護者も含む)の歯科治療時の注意点を説明できる。
- 9) 歯科訪問診療について説明できる。
- 10) 摂食・嚥下障害の診察、検査、診断を説明できる。
- 11) 摂食・嚥下リハビリテーションを説明できる。

### 2. 全身状態を考慮した歯科診療

- 1) 基礎疾患を有する患者の歯科診療
  - ① 代表的な医科疾患(内科的疾患)を説明できる。
  - ② 主要な医科疾患の症候を説明できる。
  - ③ 主要な身体診察を説明できる。
- 2) これからの歯科医師に求められる基本的な資質・能力
  - ① 高齢者・障がい者の心身的特性、あるいは循環器疾患、呼吸器疾患、脳血管障害、糖尿病などの全身疾患に関する基本的な知識を有し、これらの疾患を有する患者の状態を的確に把握した上で、医科との連携の下で適正な対応ができること



- ② 在宅(訪問)歯科診療に関する基本的知識・技術を有するとともに、医師、看護師をはじめとした保健・医療・福祉・介護専門職と協働した地域包括ケアの一員として歯科保健医療を実践できること

### 【口腔乾燥症関連】

#### モデルコアカリキュラム

1. 口腔乾燥症
  - 1) 唾液の性状と役割を説明できる。【構成成分とその機能を含む。】
  - 2) 唾液腺の構造と機能を説明できる。【分泌調節を含む。】
  - 3) Sjögren 症候群の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる
  - 4) 口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す薬物の副作用を列挙できる。
  - 5) 味覚障害を概説できる。
  - 6) 口腔乾燥を概説できる。
2. 口腔・顎・顔面・頭頸部の機能
  - 1) 味覚
  - 2) 粘膜の感覚
  - 3) 唾液分泌
3. 口腔・顎の機能の発達
  - 1) 唾液分泌
  - 2) 味覚
4. 加齢・老化による歯・口腔・顎・顔面の変化
  - 1) 形態的变化
  - 2) 機能的变化
5. 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋疾患の病因・病態組織
  - 1) 口腔粘膜の疾患
  - 2) 唾液腺の疾患
  - 3) 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患

#### 国家試験

1. 総論Ⅶ 主要徴候
  - 1) 歯・口腔・顎・顔面の症候
  - 2) 口腔機能障害
  - 3) 開口・閉口障害、咀嚼障害、摂食・嚥下障害、発音・構音障害、味覚障害、呼吸障害、感覚障害、口腔乾燥
2. 総論Ⅷ 診察
  - 1) 高齢者への対応

- ① 身体的特徴
- ② 心理・社会的特徴
- ③ 医療情報の収集
- ④ 診察
- ⑤ 評価
- ⑥ 要介護高齢者の歯科治療
- ⑦ 在宅歯科医療
- ⑧ 摂食・嚥下障害とリハビリテーション
- ⑨ 多職種連携

## 2) 全身疾患を有する者への対応

- ① 留意すべき疾患悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、腎不全、肝疾患、糖尿病、高血圧性疾患、感染症など
- ② 身体的特徴
- ③ 心理・社会的特徴
- ④ 医療情報の収集
- ⑤ 診察
- ⑥ 評価
- ⑦ 医療連携、チーム医療

## モデルコアカリキュラム

### 1. 地域医療

医療を巡る社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力する。

#### <基本的な資質・能力>

医療保険制度をはじめとした医療経済や医療政策、並びに医療管理など、医学・医療に係わる社会的・経済的側面に対する関心と基本的な知識、地域・国・国際地域医療

#### ■一般目標 [G I O]

歯科医療を適切に行うために、地域医療、病診連携についての知識、技能および態度を習得する。

#### ■行動目標 [S B O s]

1. 病診連携、病病連携を体験し、理解する。

2. 多職種連携（医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）のチーム医療を理解し、体験する。
3. 地域医療を体験する。

## 2. 地域医療

### ■一般目標 [G I O]

歯科診療を適切に行うために、地域医療、病診連携についての知識、技能および態度を修得する。

### ■到達目標：

1. 病診連携、病病連携を理解し、体験する。
2. 多職種連携（医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）のチーム医療を理解し、体験する。
3. 地域医療を体験する。

## チーム医療

（チーム医療）

・ 医療チームの構成員として、相互の尊重のもとに適切な行動をとるとともに、後輩等に対する指導を行う。

### <基本的な資質・能力>

適切なインフォームドコンセント、並びにチーム医療・チームケアの円滑な実践に必要な優れたコミュニケーション能力とマネジメント能力、保健・医療・介護・福祉制度や多くの医療職の職務に関する理解と歯科医師としての知識。経験に基づいた総合的な判断力と実行力

### A-7-3) 患者中心のチーム医療

一般目標：

患者中心のチーム医療の重要性を理解し、他の医療従事者との連携を学ぶ。

到達目標：

- \* ①患者中心のチーム医療の意義を説明できる。
- \* ②医療チームや各構成員（歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。
- \* ③保健・医療・福祉・介護の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。

## 3. 口腔機能障害

### B-3-2) 口腔疾患の予防と健康管理

一般目標：

口腔疾患の予防と健康管理を理解する。

到達目標：

- \* ⑤口腔ケアの意義と効果を説明できる。

#### E-4-3) 高齢者の歯科治療

一般目標：

高齢者の身体的、精神的および心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。

到達目標：

- \* ①老化の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
- \* ②老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。
- \* ③高齢者に多くみられる疾患を説明できる。
- \* ④高齢者における口腔ケア処置について説明できる。
- \* ⑤口腔機能向上による介護予防について説明できる。
- \* ⑥高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。
- ⑦高齢者に対して基本的な歯科治療の介助ができる。
- \* ⑧要介護高齢者(在宅要介護者も含む)の歯科治療時の注意点を説明できる。
- \* ⑨歯科訪問診療について説明できる。
- \* ⑩摂食・嚥下障害の診察、検査、診断を説明できる。
- \* ⑪摂食・嚥下リハビリテーションを説明できる。

#### E-2-4) - (10) 口唇・口腔・顎顔面領域の機能障害

- \* ①咬合異常と咀嚼障害の原因と診察、検査、診断および治療方針を説明できる。
- \* ②嚥下障害を概説できる。
- \* ③言語障害を概説できる。
- \* ④味覚障害を概説できる。
- \* ⑤口腔乾燥を概説できる。

## 4. 口腔ケア

### 5. 基礎疾患を有する患者の歯科診療

#### E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識

一般目標：

歯科医師として必要な全身疾患(内科的疾患)を理解する。

到達目標：

- \* ①代表的な医科疾患(内科的疾患)を説明できる。

- \* ②主要な医科疾患の症候を説明できる。
- \* ③主要な身体診察を説明できる。
- \* ④妊娠時の管理に必要な基礎知識を説明できる。
- \* ⑤小児の代表的な疾患を説明できる。

## これからの歯科医師に求められる基本的な資質・能力

### 1. 具体的な専門的知識・技術の到達目標

1) 高齢者・障がい者の心身的特性、あるいは循環器疾患、呼吸器疾患、脳血管障害、糖尿病などの全身疾患に関する基本的な知識を有し、これらの疾患を有する患者の状態を的確に把握した上で、医科との連携の下で適正な対応ができること

4) 在宅(訪問)歯科診療に関する基本的知識・技術を有するとともに、医師、看護師をはじめとした保健・医療・福祉・介護専門職と協働した地域包括ケアの一員として  
歯科保健医療を実践できること

歯科医師として、地域における保健・医療・福祉・介護等の現状と問題点を把握し、その連携強化等の改善・充実に貢献するとともに常に医療の経済的側面等を巡る動向を理解する。

### E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識

一般目標：

歯科医師として必要な全身疾患(内科的疾患)を理解する。

到達目標：

- \* ①代表的な医科疾患(内科的疾患)を説明できる。
- \* ②主要な医科疾患の症候が説明できる。
- \* ③主要な身体診察が説明できる。
- \* ④妊娠時の管理に必要な基礎知識を説明できる。
- \* ⑤小児の代表的な疾患を説明できる

## 6. 口腔乾燥症

### 一般目標：

超高齢社会を背景とした口腔乾燥症の成立機序と誤嚥性肺炎発症への関連性を理解す

るために、正常の唾液分泌メカニズムや唾液の役割を学習するとともに唾液分泌低下

に起因する疾患の病態を学習する。

### E-2-2) 口唇・口腔の基本構造と機能

#### 一般目標：

口唇・口腔領域の基本的な構造と機能を理解する。

#### 到達目標：

- \* ④唾液の性状と役割を説明できる。【構成成分とその機能を含む。】
- \* ⑤唾液腺の構造と機能を説明できる。【分泌調節を含む。】

### E-2-4) - (7) 唾液腺疾患

- \* ①唾石症の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。
- \* ②唾液腺炎の種類と特徴、症状、診断法および治療法を概説できる。
- \* ③唾液腺腫瘍の種類と特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。
- \* ④流行性耳下腺炎の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。
- \* ⑤Sjögren 症候群の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる

### E-2-4) - (9) 口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患

- \* ③口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現すアレルギー性疾患、膠原病、免疫不全とそれらの症状を列挙できる。
- \* ⑤口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状を列挙できる。
- \* ⑦口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す薬物の副作用を列挙できる。
- \* ⑧口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す代謝障害とその症状を列挙できる。

### E-2-4) - (10) 口唇・口腔・顎顔面領域の機能障害

- \* ④味覚障害を概説できる。
- \* ⑤口腔乾燥を概説できる。

### E-4-3) 高齢者の歯科治療

#### 一般目標：

高齢者の身体的、精神的および心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。

#### 到達目標：

- \* ①老化の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。
- \* ②老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。
- \* ③高齢者に多くみられる疾患を説明できる。
- \* ④高齢者における口腔ケア処置について説明できる。
- \* ⑤口腔機能向上による介護予防について説明できる。

## 2 社会と歯科医療 | 約 2%

ウ保健・医療・福祉・介護の制度

- a 歯科医師法
- b 歯科衛生士法
- c 歯科技工士法
- d 薬事法
- e 医療法
- f 保健・医療・福祉・介護の各制度と職種
- g 地域歯科保健活動での各職種の連携に関する制度

## 8 医療面接 |

ア意義, 目的

- a 医療情報の収集・提供約 4%
- b 患者歯科医師関係の確立
- c 患者の指導、動機付け、治療への参加

イ面接のマナー

- a 身だしなみ
- b 挨拶、態度
- c 会話のマナー、言葉遣い
- d コミュニケーションの進め方（質問法、傾聴の仕方、非言語的コミュニケーション）
- e プライバシーの保護
- f 感情面への対応
- g 主要な症候ア全身の症候

ウ病歴聴取

- a 主訴
- b 現病歴
- c 常用薬、アレルギー歴

- d 既往歴
- e 家族歴
- f 患者背景（生活習慣、喫煙歴、社会歴）
- g 患者・家族の考え方・希望

## 16 チーム歯科医療 約2%

### ア医療機関でのチームワーク

- a 歯科医師・医師間
- b 歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士間
- c 多職種連携

### イ 地域医療でのチームワーク

- a 病診連携
- b 診診連携
- c 保健・医療・福祉・介護・教育の連携
- d 家族との連携
- e 地域連携クリニカルパス

### ウ チームワーク形成

- a リーダーシップ
- b チームの調整技能

### エ コンサルテーション

- a 自己責任と自分の限界

### オ 社会生活

- a 社会復帰
- b 社会保障制度（所得、介護、障害）
- c 人的支援
- d 物的支援（福祉用具）
- e 社会的支援
- f 自立



文部科学省 大学間連携共同教育推進事業  
「IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」  
第 1 回 外部評価委員会議事録

【日 時】平成 27 年 3 月 27 日 (金), 15:00 ~16:50

【場 所】昭和大学:1 号館 505 号室

【出席予定者】大西弘高先生(東京大学)、ブルーヘルマンス先生(東京医科大学)片岡教授、須郷課長

————— 議 事 内 容 —————

1. 取組の概要とその成果の説明

3 年目までの取組の概要とアンケートなどの結果の説明 (資料 1)

2. 外部評価委員からの質問内容

1) なぜ IT を活用するのか?その利点は?

- ・「いつでも」「どこでも」の特性を活かして、3 大学と関連歯科医師会が連携して「IT 教材」を作成すると、3 つの大学がその教材を活用して授業を実施する事ができる。
- ・IT 教材を活用した反転学習を実施する事により、能動的な学習を促進できる。

2) 3 大学が連携するメリットは?

- ・教員側には緊張感、刺激、達成感などメリットがあるが、学生にメリットがあるか?

3) 授業アンケート、ポートフォリオ、IT 教材へのアクセス時間、事業終了後の対応などに関する質問があった。

3. 討議および改善案

1) 3 大学および関連歯科医師会が連携したプロジェクトで、かつ IT を活用しているので、さらに 3 大学の学生間のコミュニケーションを IT を活用して活性化を図る。

2) 「大学教員」「歯科医師会」「学生」の 3 者のコミュニケーションを IT を活用して活性化する。

3) IT を活用した授業を受けた学生達の感想、意見、改善要求などをインタビューを通じて収集して、授業の改善を図る。